

令和6年度 課題設定報告会（2年人文社会科学科・理数科学科）

令和6年5月23日（木）6・7限に、2年人文社会科学科・理数科学科79人が課題研究の課題設定報告会を行いました。

人文社会科学科は国語、地歴公民、家庭、英語の各班計7班、理数科学科は物理、化学、生物、地学、数学、情報の各班計13班、合計20班が、課題設定の理由や研究の進め方について、それぞれ発表しました。

地歴公民班1班は、「昆布と北前船～富山県民が昆布を食べるのはなぜ？～」というテーマのもと研究を行います。富山県の昆布文化は北海道からの北前船の影響だと考えられています。しかし、北前船で運ばれた物のうち、なぜ昆布が富山県に根付いたのか、富山県以外の寄港地に昆布文化はあるのかなど、様々な疑問点が出てきました。それらを解明しつつ、富山県の昆布の食文化を残していく手段についても、研究したいと考えています。



視聴覚室会場の発表の様子



化学室会場の発表の様子

化学1班は、「納豆菌を用いて、最強の発酵食品を見つける！」というテーマを設定しました。納豆菌は耐性が非常に強く、自然界最強の有用菌と呼ばれています。そこで、納豆菌の新たな可能性について研究したいと考えました。今後は、納豆菌の採取場所や培養する条件を変えることで、増殖する条件を研究していきます。また、大豆以外の食材との相性や、食用以外の活用法などについても、研究を進めていく予定です。

発表後の質疑応答では、本校教員や富山大学・富山県立大学の教員から、「課題や評価基準を明らかにしよう」や、「客観的な視点を忘れないで」、「実験条件をしっかりと絞って実験しよう」、「新たな視点と先行研究を絡めて深化させよう」など、多くのアドバイスをいただきました。また、参考論文を用意していただいた班もあり、とても有意義な会となりました。



物理室会場の発表の様子



報告会后、助言を受けている様子

報告会終了後は、大学の先生を交えて、班ごとに、研究内容や研究方法の再検討を行いました。

課題研究は、今後、中間発表会（9月28日）、三校合同発表会（12月22日）、校内発表会（1月22日）と進めていく予定です。